

伊藤信義

名古屋学院大学 理事長

出席者

小嶋博

名古屋学院大学 学長



座談会

大学と同窓会の結束力が問われる 都市型キャンパス未来予想図



小川博司

同窓会 会長

出席者

須崎英晴

司会 (同窓会 副会長)

小川博司同窓会会長が就任2年目を迎えました。また今年と同窓会の代議員の任期満了に伴う改選も行われ、新たな体制で同窓会が動き始めています。名古屋学院大学同窓会と母校との信頼関係をこれまで以上に強固なものにし、さらに発展していく為に今求められることを、伊藤理事長と小嶋学長、小川同窓会会長が語り合いました。

DISCUSSION

大学と同窓会の ベストバランスを

— 昨年、同窓会会長が小川新会長に交代し、新たな体制で同窓会の運営を始めて1年が経過しました。この1年で大学と同窓会の協力体制にどんな変化が生まれたとお考えか、お聞かせください。

小嶋学長(以下学長に略) 端的に言うと、小川会長と占部前会長のお二人に大学の理事会に入っていただいたことが、大きな変化だと思います。同窓会の新旧トップが大学の運営に参画するというのは実に大きな発展ではないでしょうか。私たち大学側としても、これを契機に在校生に対して同窓会の存在をもっと知らしめていくのが一つの課題だと考えています。



伊藤理事長(以下理事長に略) 昨年、大学創立45周年を迎えたことからわかるように、名古屋学院大学は他大学に比べて

割と若い大学に数えられます。卒業生が3万8千人を超えているとはいえ、第1期生の年齢は65歳くらいですから、大学の運営に携わっていた方々がまだまだ少ないのは致し方ないと思っております。ですが、これから創立50周年に向けて大学と同窓会の関係がますます密接になるのは間違いないと確信しております。同窓生の方々が名古屋学院大学の発展のためにキャンパスに結集していただき、もっと大学を盛り上げていただけないかと期待しております。

小川会長(以下小川に略) 昨年は北陸に3支部を立ち上げました。大学と同窓会の協力